

各関係機関長様

熊本県病虫害防除所長

早植え水稲のいもち病発生状況（技術情報第7号）について（送付）

このことについて、県内の発生状況を下記のとおりまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

#### 記

早植え水稲において、穂いもちの伝染源となる葉いもちの発生が平年より多い状況です。今後の天候に注意して、薬剤の適期散布による予防に努めてください。

#### 1 発生状況

- （1）早植え水稲において、葉いもちの発生が6月から7月にかけて急激に増加している。7月中旬の巡回調査（定点10ほ場）では、葉いもちの平均発病株率は58.4%（平年11.3%）と平年より多く、過去10年と比較して最も高い値となっている（図1、図2）。
- （2）調査地点の発生ほ場のうち、約半数で上位葉の発病が認められる。一部では、孢子形成量が多い進展型の病斑も確認されている（図3）。

#### 2 防除対策

福岡管区气象台が7月28日に発表した1か月予報によると、向こう1か月の天候は、晴れの日が多く、降水量は平年より少ない見込みであり、本病の発生には適さない。しかし、穂いもち（減収）につながる伝染源量は平年より多いと考えられるため、下記に留意して適期防除に努める。

- （1）同じ地域内でもほ場によって葉いもちの発生状況は異なっているため、発生状況を確認する。上位葉に進展型病斑が見られるほ場では、速やかに薬剤散布を実施する。
- （2）穂いもちは発生後の防除が困難であるため、発生が少ないほ場でも出穂期前後の生育に合わせた防除を計画的に行う。
- （3）薬剤の散布に当たっては、周辺の作物やミツバチ・魚介類等の環境に影響がないよう飛散防止対策に努める。
- （4）今後の発生状況や防除について最新の情報は、病虫害防除所のホームページ（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>）で確認する。

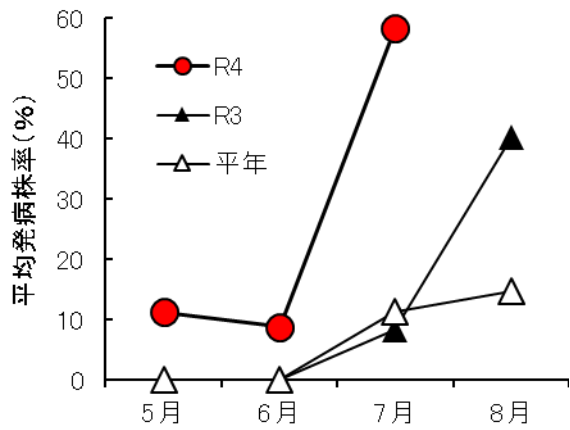


図1 早植え水稻の葉いもち発生推移  
定点調査の平均値

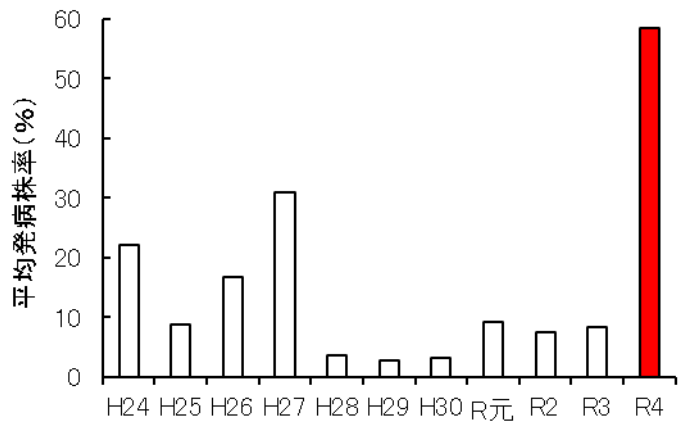


図2 早植え水稻における葉いもち発生の年次間差(7月)



図3 葉いもちの進展型病斑  
7月30日撮影(左右は別のほ場)

熊本県病害虫防除所  
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)  
 担当：清永、江口 TEL 096-248-6490